

第16回全日本ユース(U-16)水球選手権大会－桃太郎カップ－【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター 【2023/12/26】

この試合のプレー集計

男子準々決勝2

埼玉選抜 12

5	－	2
3	－	4
3	－	4
1	－	1

11 山口県選抜

PSO

審判： 太田 一誠
坂井 奎太

埼玉選抜	31	SH数	21	山口県選抜
	5	速攻数	9	
	15	ST・SB	6	
	8	SH・P誘発アシスト	6	
	21%	GK阻止率	48%	
	6	EX反則数	7	

ST・SB: ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

準々決勝第2試合は、スピード勝負の埼玉と攻守のバランスの良さが持ち味の山口というカードとなった。埼玉はエース④稲垣を軸にした攻撃で、対する山口は全員守備からシュート力のある⑦濱川、⑩長野にボールを集めて得点を狙う。ディフェンス面ではやや山口が優位に立っているだけに、埼玉は無理な攻撃を避け、ロースコアな試合に持ち込みたいところ。

【1P】

埼玉らしいスピード展開で⑤菊池が先制。続いてペナルティを誘発し、⑤菊池が決めて2点目をマーク。山口は埼玉のスピードに圧倒された序盤であったが、埼玉の退水シュートを防いでから得意の⑦濱川のセンター攻撃で1点を返す。しかし埼玉はスピードを緩めることなく、⑥吉川、④稲垣の連続得点で突き放す。さらに埼玉は山口攻撃のラストパスをインターセプト。そこで退水を誘発して、⑧小久保が決めて5点目。ピリオド最後は、山口が退水攻撃でブザービートSHを決めて1点を返し、埼玉5－2山口で第1ピリオド終了。

【2P】

埼玉のゴール前オフェンス反則から山口が攻め、相手ゾーンで退水を誘発して⑨長尾が決めて3点目。さらにゴール前に泳ぎ込んだ山口エース⑦濱川にボールが渡り、ペナルティを誘発。そこを決めて1点差とした(埼玉5－4山口)。埼玉は再開からのセット攻撃をコンパクトにして、⑩池田が狙ったように6mSHで突き放す。山口も退水攻撃で⑨長尾が決めて応戦。埼玉はすぐさま⑥吉川が決めたが、山口ディフェンスはプレッシャー不足状態で、全員が「下がっている」場面が目立つ。埼玉のシュートミスから山口⑨長尾がフリースローSH(ループ)を決めて1点差。ピリオド終了間近、右サイドドライブした③秋田がペナルティを誘発して埼玉が加点。埼玉8－6山口の2点差で第2ピリオド終了。勝負の行方は後半戦へ。どちらももう少しディフェンス面でいいプレーを発揮してもらいたいところ。

【3P】

埼玉がスタートからの攻撃でペナルティを誘発して加点。しかし山口も⑦濱川が退水を誘発し、⑨長尾が決めて追いつがる展開。しかし山口ディフェンスはセンター位置を警戒し過ぎて、外周のシュート力ある選手へのマークがほとんどない状態で、そこを④稲垣、⑥吉川が決めて点差を広げた。しかしながら、埼玉の攻撃もミスが続き、そこで⑦濱川、⑨長尾の連続得点で点差を詰め、さらに⑦濱川が得意の中央ドライブSHを決めて3連続得点で1点差として第3ピリオド終了(埼玉11－10山口)。リードした段階での埼玉の攻撃はもう少し落ち着かせる必要があった。

【4P】

山口が右サイドから⑧井上が決めて同点に。しかし埼玉もエース④稲垣が決めて、再び埼玉リード。ここから双方死力を尽くす攻防が続き、4分間以上も泳ぎ続けた。その間、微妙な判定も多々あったが、両者にイーブンな扱いで攻防を続けさせた両レフリーにも拍手。水球の醍醐味を会場全体に伝えた形で、そのままタイムアップ。結局、埼玉エースの④稲垣が決勝点をあげた形で(埼玉12－11山口)、埼玉が準決勝進出。